
浮気の考察

志内炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

浮気の考察

【Nコード】

N3336C

【作者名】

志内炎

【あらすじ】

はたして俺は浮気したのか……？

（前書き）

この小説は完全なフィクションです

『大丈夫？』

何が？といたいメールが入る。元カノからだ。何気なくテレビをつけると思信越で地震があったと報道されている。こっちも少し揺れたらしい。

『大丈夫』

地震が苦手な俺を心配してくれた。

（相変わらず優しいな）

別れてから四年もたつ。その前は六年つきあっていたから、足掛け十年の仲だ。

別に嫌いになったわけではなく、長すぎた春という言葉がしっくりくる別れだった。今でも友達だし、ひいき目にみれば、元カノはよりを戻したがってさえる。

俺はさっぱりそんなつもりはない。だって、欲情しないのだ。

元カノの心温まる心配をよそに、俺は地震があった時間、飲み屋のおねえちゃんと電話してさっぱり気付いていなかった。そのおねえちゃんとは、楽しく飲む以外のお付き合いはないし、求めてもない。が、そこは男と女。今後全く何もないともいい切れない。

昨日の深酒が残る体を持て余しながら洗濯物を干す。一応、勝負パンツ。

（別に今日、飲み屋のおねえちゃんと同伴するからでなく、ここんとこ忙しくて、洗濯物がたまっていただけで……）

下心の言い訳をしながら干す。

「そういえば……」

携帯電話をチェックする。カノジヨからのメールがない。ないといつても昨日の昼からだ。メールも電話もひどく不精なやつで、一年間口酸っぱく言い続けた結果、最近やっと一日一通は送ってくるようになった。

自分は連絡をよこさないくせに、恐ろしく嫉妬深く、

「職場の女の子の話とか、しないで」

とか、自分は元カレの話をするくせに

「元カノの話なんか、聞きたくないから」

とかいう身勝手なやつだ。

だが、たまに遠慮なく押し付ける俺の意見を、彼女なりには実行しようとしてくれている。連絡はないが、浮気出来るような器用さもない。不器用な性格も可愛くて好きだし、体もタイプだ。

メールを送ろうか悩んでいるうちにうとうとしていた。飲み屋のおねえちゃんから再び電話があつて、待ち合わせの時間を決め、うきうきしながらシャワーを浴びた。

鼻唄混じりで出てくると、携帯電話が光っている。メールの着信だ。

『今日は遅番。今からです。眠い……』

相変わらず素っ気ない彼女のメールに、ちょっとだけ胸が痛む。

『仕事終わったら電話して』

がらにもない返事を送る。

それでも待ち合わせ場所には、勝負パンツを履いて、十分前につき、飲み屋のおねえちゃんと居酒屋に向かう。

しれっとした顔をして、店に入り、おねえちゃんが着替えてくるのを、別のおねえちゃんに接待されながら待つ。

お目当てのおねえちゃんと歌を歌ったり、くだらない話をして過ごす。

「ねえ、本当にカノジョいないの？」

「いないよ。いたら飲みに来ないし」

ちよっと胸がちくりとする。

（こういうところでは、そういうのが礼儀）

本当はつきあい始めて一年もたっているのに、元カノにも言っていないくせに、下心に言い訳をする。

「じゃあ、私、早上がりしちゃうかな」

思わぬ展開。おねえちゃんの目は明らかに誘っている。据え膳食わねば……

アパートに向かつて一人で歩いていた。生温いけれど、風が気持ちいい。携帯電話がなる。

「お疲れ。今仕事終わったよ」

眠そうな彼女の声がする。

「何かあったの？」

「何もないよ」

「電話してこいって言っておいて？」

「……最近、声聞いてねえなって思っただけ」

「何、それ」

くすぐったそうに笑う息が耳元で聞こえる。

「あやしいね、浮気でもしたんじゃないの？」

「……してないよ」

据え膳は……

食わなかった。すんでのところで後込みした。口の中でゴニョゴ

ニョと言いつつ、ズボンの上から勝負パンツの裾をぎゅっと掴み

「また来るよ」

と力無く告げて、店を出た。

「ふうん……じゃ、そんなに私が恋しいって事？」

「あ、ほ、か」

電話の向こうで笑いながらギャアギャア言っている声を、耳から離して聞いていた。

俺はやっぱ君が好きです。

時々頭をもたげるずい本能を、いつまでも君という理性で引き止めてください。

心の中でそう言つて、もう一度電話口に向かつて笑いながら

「あほか」

と言った。

とっちらく、どこからか浮気？

（後書き）

どこからが浮気か……見解がわかれるところです。主人公は浮気したと思いますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3336c/>

浮気の考察

2010年10月22日00時21分発行